

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 梓の郷	代表者	豊田喜久夫	法人・ 事業所 の特徴	「わたしらしく、いつまでも」の法人理念を在宅介護サービスの分野においても、より実践していきたいと考えている。さんぼみちは「わたしらしい人生をいつまでもわたしらしく堂々と生きる」をモットーに、今までの人生で培ってきた「持ち味」や「力」をさんぼみちでも発揮できる支援をしていく。 「また行きたくなる、誰でも気軽に来れる場所」という総合コンセプトのもと、介護を必要としている高齢者のみならず、子ども、障がい者、地域住民誰もが、“ごちゃませ”に集える場所を目指している。
事業所名	小規模多機能型居宅 介護さんぼみち	管理者	小林俊介		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	3人	1人	1人	1人	0人	4人	0人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	職員全員が希望する研修に参加できるように計画を立て進める。重大な事故防止を予防するために、ケアの質の向上を目的にヒヤリハット件数を上げる。	コロナ禍ということもあるが、個人の研修計画がうまく進まず研修を受けられなかったスタッフもいる。ヒヤリハットも前年度と横ばいの結果となってしまった。	事業所のスタッフが誰と関わってどのように動いているか正直分からなかった。誰が何をどのようにいつまでに研修を受けるか計画を立てるようにする。	サービスの質の向上を目的に法人で行う研修、事業所内部研修、個々の必要な研修を計画し実施する。
B. 事業所のしつらえ・環境	「居心地がいい空間」とは個人差があるが、常に利用者や来訪者からの意見を反映させ、把握と改善を引き続き行っていく。	前年度と比較し、地域の方々が会議等に場所を使用して下さる方が増えた。特に改善要望などの意見はもらっていないが把握は必要。	少人数での会議を行う場合はどこでと聞くと必ずさんぼみちと言われる。これからも開放的な集いの場であってほしい。	引き続き地域住民の集いの場を目指す。よりみち利用者からの意見、要望がある場合は経営企画室と連携を図り環境を整えていく。
C. 事業所と地域のかかわり	コミュニティスペースを利用される方々にも小規模多機能というものを認知する取り組みをすると同時に利用者も参加できるような企画も考案する。	地区への回覧、お便りなどを配り知ってもらった活動をした。利用者は殆ど参加することが出来ず。家族がイベントに参加することはあった。	駐車場がもう少し広ければ良い。地域から必要とされる事業所作りを目指しているなら住民からの声を聞き取り実態把握、調査を試みてはどうか？	よりみちでのイベントは地域の方々だけではなく家族、利用者にも案内をする。地域に向けて事業所として出来ることはする。具体的な内容は運営推進会議の場を用いて検討する。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>新型コロナウイルス感染予防を徹底して、できる範囲で地域からのボランティアさんの受け入れをしていく。1人1人の暮らしを支えている地域資源の把握をひとつでも増やししながら、利用者が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしができる様取り組む。</p>	<p>地区のボランティア団体に方々が何度か来て頂けた。地域の課題には取り組むことが出来ず。利用者も地域に出向くことが少なかった。</p>	<p>ゴミ出し、雪かき、草取りなど社会生活に苦勞している高齢者が増えてきている。隣り近所に頼めないのが現状で事業所として取り組んでほしいと思う。よりみちでも交流を通して施設としてできることを伝えても良いのでは？</p>	<p>利用者が地域での生活者として暮らしていく為に地域との関係の構築を目指し、地域の行事には参加ができるように図っていく。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>運営推進会議メンバー増員の検討をする。運営推進会議では事業所のことだけではなく地域での課題などにも話し合える時間を作る。</p>	<p>メンバー1名増員。課題の解決に至らないまでも対面会議を行えたときには意見、要望など聞くことができています。</p>	<p>送迎サービスやつむぎちゃんサポートなどお願いしても会員が少ない為か利用できずに困っている独居高齢者がいる。民生委員に状況を聞くなども情報収集の1つになる。</p>	<p>運営推進会議では、事業所の困りごと地域の困りごと共に考えていける話し合いの場とし課題解決に取り組んでいく。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>事業所や地域の防災・災害対策を地域の方と情報を共有する。避難訓練は地域の方の参加呼びかけをする。</p>	<p>避難訓練は行っているが事業所のみで地域参加はなかった。</p>	<p>警報級の災害が増えていて事業所の災害計画の見直しが必要。(氷室地区防災マニュアル、BCPを含めた内容で) 地域の方と一緒にすることが大切。</p>	<p>事業所のBCPを地域の実情に合わせたものへと見直しを行う。防災訓練は参加の有無を近所へ声をかける。</p>